

# コナガ情報（キャベツ）

平成26年3月4日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 発生状況

(1) 9月下旬から2月下旬までの巡回調査の結果、キャベツにおけるコナガ（図1）の寄生株率は、尾張地域では低い状況ですが、東三河地域では高い状況で推移しており（図2）、調査ほ場平均の寄生株率も、過去10年の平年値と比較して高い状況で推移しています（図3）。



図1 コナガの幼虫

(2) 2月下旬のキャベツにおけるコナガの寄生株率は県下全域で2.1%（平年0.4%、昨年0.0%）、発生ほ場率は36.8%（平年10.5%、昨年11.1%）で、過去10年と比較して寄生株率は1番目に、発生ほ場率は2番目に高い状況です。

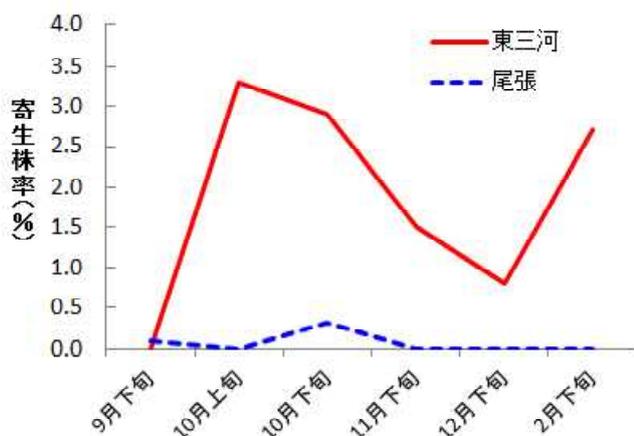


図2 キャベツにおけるコナガの地域別寄生率の推移

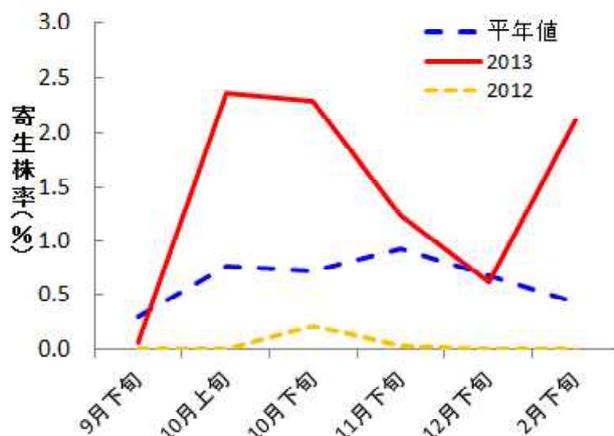


図3 キャベツにおけるコナガの寄生株率の推移

(県平均値、平年値：過去10年間の平年値)

## 2 防除対策

- (1) コナガは、休眠をせず、冬期も少しずつ発育を続けます。そして、気温の上昇とともに密度を高め、5月に密度が急増します。発生が見られる場合は、早めに防除しましょう。
- (2) コナガは、世代交代が早く、薬剤抵抗性が発達しやすいので、表を参考に同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう。
- (3) 東三河地域のほ場において、ジアミド系薬剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンプロアブル5）のコナガに対する効果が低い事例が確認されています。これら薬剤の効果低下が疑われる場合は、表を参考に別系統の薬剤を使用しましょう。

表 コナガの主な防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統
アフーム乳剤	マクロライド
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン
ディアナSC	スピノシン
トルネードエースDF	オキサダイアジン
パダン水溶剤	ネライストキシン
ハチハチ乳剤	フェノキシベンジルアミド
フローバックDF	BT
エスマルクDF	BT
ノーモルト乳剤	IGR（脱皮阻害）

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。